

# 田名部川水系河川整備基本方針

下北の自然と暮らしを育む

ふれあいの水辺 田名部川

平成 13 年 10 月

青 森 県

# 目 次

1.河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 .....	4
(1) 田名部川流域の現状 .....	4
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 .....	3
2.河川整備の基本となるべき事項 .....	5
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 .....	5
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 .....	6
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項 .....	7
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に 関する事項 .....	7

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 田名部川流域の現状

田名部川は、<sup>しもきたぐんひがしどおりむらあさひなだいら</sup>下北郡東通村朝比奈平に源を發し、途中右支川の<sup>ひやみずさわがわ</sup>冷水沢川、<sup>かばのさわがわ</sup>蒲野沢川、<sup>おんなだてがわ</sup>女館川、<sup>おがわ</sup>小川、左支川の<sup>めながわ</sup>目名川、<sup>あべらがわ</sup>青平川を合流しながら、東通村、むつ市の水田地帯を貫流し、むつ市街地を経て陸奥湾に流入する流域面積 158.1 km<sup>2</sup>、幹川流路延長 26.7 kmの二級河川である。

流域はむつ市と下北郡東通村の2市村に跨っており、流域人口は約5万6千人となっている。流域の年間降水量は、県内でも冬期の積雪量が少めなこともあって1,200mm程度と比較的少ないが、恐山などの高い山々が連なる流域の西側では、1,400～1,600mmと2～3割多くなっている。

このため、この西側を流域とする小川からの洪水流出は比較的多く、加えてむつ市の市街地が田名部川下流部の低平地に形成されていることから、氾濫被害を受けやすい状況にある。

田名部川の本格的な河川改修は、昭和30年10月洪水を契機に着手され、昭和31年にむつ市の市街地を迂回する放水路として新田名部川の開削に着手し、昭和42年に暫定通水した。また、昭和47年より放水路開削に伴う氾濫水の遡上を防止する潮止堰と平常時に旧田名部川へ維持流量を分流する分水門の建設に着手し、昭和52年度に完成している。

また、昭和48年9月洪水では流域全般にわたって浸水面積772ha、浸水家屋3,127戸の被害を受けたことから、田名部川の分流点から上流部と蒲野沢川、目名川、青平川の各支川で改修が行われ、昭和51年に完成している。

さらに、昭和58年度よりむつ市街地の氾濫防止を図るために旧田名部川の河道改修と併せて支川小川で洪水調節施設の整備が進められている。

しかしながら、新田名部川など改修が完了し治水安全度が高まった上流部に比べ、改修途上にあるむつ市街地部の旧田名部川の河道流下能力は総じて小さく、最近では、平成6年9月にもむつ市内で浸水被害が発生し、早期の治水安全度の向上が望まれている。

河川の水質については、「生活環境の保全に関する環境基準」で中流部の荷橋を境に上流部はA類型、下流部はB類型指定されている。現状の水質はBOD75%値でみると、むつ市街地の上流部では良好な水質が安定して維持され、環境基準を満足しているが、むつ市の生活排水が流入する下流部では経年的な変動が見られるものの全般的に水質は悪く、環境基準を満足していない。

河川水の利用については、農業用水として約760haに及ぶ農地のかんがい利用されている。

田名部川の上流部は丘陵地で、スギを主体とした人工林にミズナラ カシワ等の広葉樹林が混在する豊かな植相で、そこにはニホンカモシカ ヤマネを始めとする哺乳類や、山間部に生息するヤマセミ等の多種多様な動植物が生息 生育している。魚類では、清流を好むカジカやイワナ等が多く、自然豊かな溪流河川の様相を呈している。

中流部は、氾濫原であった広大な耕地の中を川がゆっくり流れ、河畔はススキ、ヨシ群落を始めとした植生に覆われている。河岸からはヤマメ、イワナ等の溪流魚の姿も見られる。また、右支川の古川筋は加藤沢沼沢など大小の池や沼がある湿地帯で、カワモズクなどの湿地植物群落が広がっている。

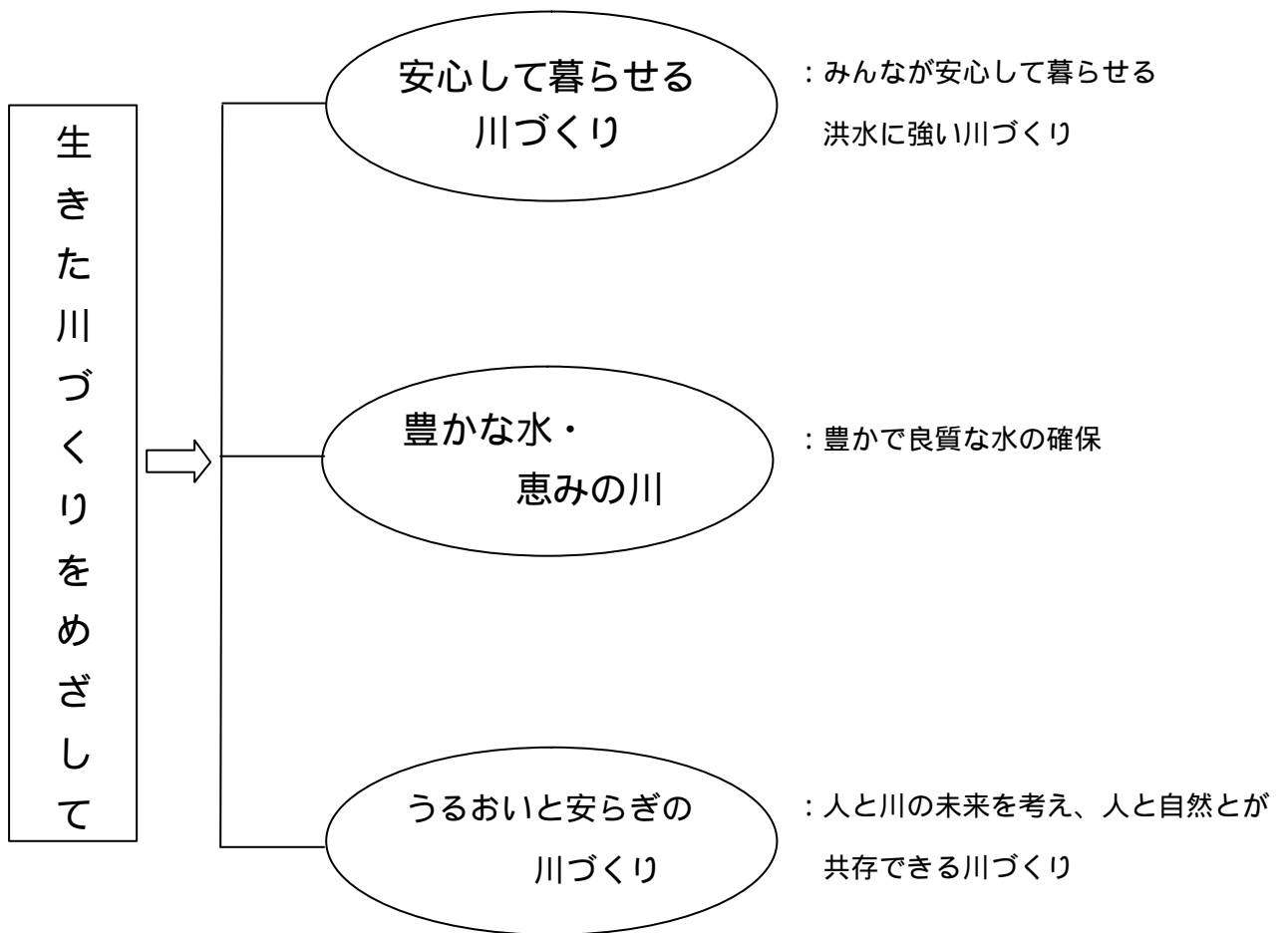
下流部は川幅も広がり、市街地にありながら水際にヤナギ等の河畔林やヨシ等も見られ、オジロワシなどの飛来地ともなっている。気象条件の悪い時は芦崎湾で越冬するオオハクチョウやコクガンの避難場所ともなっている。魚類ではウグイを始め、カジカ、ハゼ等多くの種類が見られる。また、沿川には橋詰広場や親水広場なども整備され、釣りや漕艇、水遊びといった河川利用も盛んに行われている。さらに、沿川では、東北の夏祭のフィナーレを飾る下北半島最大規模の祭である「田名部まつり」や「ふるさとまつり」、「むつ桜大祭」、「田名部子供ねぶた」、「むつ下北海の祭典」といった祭が開催されている。

このように、田名部川は、豊かな自然の中で農業を主体とした生産・生活の場として地域住民と密接な係わりを持つと同時に、景観・スポーツ・レクリエーション・イベント等を通して「ふるさと」を意識させる、愛着をもたれている河川である。

このため、洪水から流域住民の生命・財産を守る「治水」、安定した水利用ができる「利水」、動植物の多様な生息・生育環境を保全し、うるおいとやすらぎのある水辺環境を形成する「環境」のバランスのとれた、安全で魅力ある川づくりが望まれている。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

田名部川の河川整備は、地域住民の暮らしと密着した「生きた川づくり」を目指して、治水安全度を早急に向上させる「安心して暮らせる川づくり」が重要であり、沿川に広がる水田地域に対しては、安定した水利用のできる「豊かな水、恵みの川づくり」を中心として、良好な景観と多様な動植物を育む豊かな自然環境に配慮した「うるおいと安らぎの川づくり」を進めていく必要がある。



田名部川河川整備の基本方針

そのため、田名部川における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、河川整備の現状、水害発生の現状、河川の利用の現況並びに河川環境の保全を考慮し、関連地域の社会経済情勢の発展に即応するよう地域の発展に係わる諸計画との調整を図り、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図っていくものとする。

田名部川の災害発生防止又は洪水被害の軽減に関しては、50年に1回程度の確率により発生する洪水について、安全な流下を図るものとする。さらに、整備途上段階あるいは計画規模を上回る洪水に対しては、ハザードマップ作成の支援、情報伝達体制の整備等、ソフト面の充実を図り、地域住民と連携して洪水に備えるものとする。

河川水の利用に関し、既得かんがい用水の適正な利用や渇水時における節水を励行するなど、流水の正常な機能の維持に努めるものとする。

河川環境の整備と保全に関しては、市街地にあつて自然が豊かな下流部と広大な大地と一体となった流れに見られる中・上流部の良好な景観と動植物の多様な生息・生育環境の保全に努める。また、田名部川が人々にとって生産・生活の場として深く関わり、愛着をもたれてきたことから、人と川とが共生できる川づくりを推進するため、「身近なふるさとのシンボル」として愛着を感じることができる水辺を確保するとともに、地域住民との連携により、現在の良好な水環境の保全に努めるものとする。

河川の維持管理に関しては、堤防や潮止堰をはじめとした河川管理施設の機能を十分発揮できるよう維持する。また、地域の人々にとって最も身近な親水空間である田名部川を守り育てていくために、河川愛護の浸透並びに住民参加による河川清掃などの河川管理を推進する。

## 2.河川整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水は、流域の状況及び県内他河川の計画規模とのバランスを総合的に考慮して、50年に1回程度の確率の降雨で発生する規模の洪水とする。

田名部川の基本高水のピーク流量は、昭和48年9月洪水、昭和56年8月洪水等を主要な対象洪水として検討した結果、基準地点赤坂橋において $650\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち洪水調節施設により $170\text{m}^3/\text{s}$ を調節して、河道への配分流量を $480\text{m}^3/\text{s}$ とする。

また、旧田名部川は、基準地点下北橋において、基本高水のピーク流量を $190\text{m}^3/\text{s}$ とする。

基本高水のピーク流量等一覧表

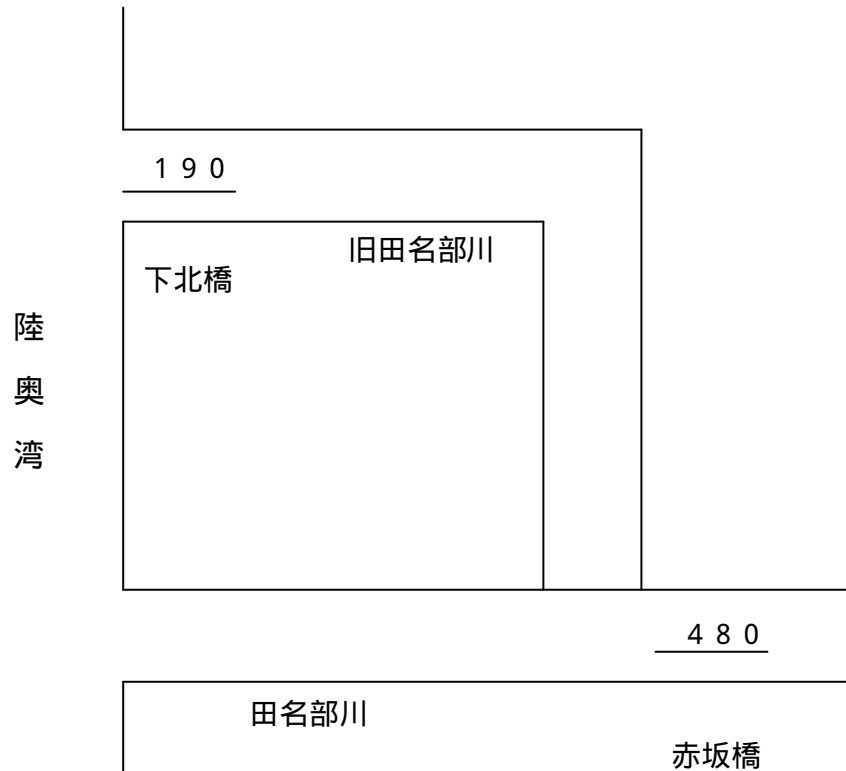
(単位： $\text{m}^3/\text{s}$ )

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
田名部川	赤坂橋	650	170	480
旧田名部川	下北橋	190	-	190

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

田名部川における計画高水流量は、赤坂橋地点において  $480\text{m}^3/\text{s}$  とする。旧田名部川は、下北橋地点において  $190\text{m}^3/\text{s}$  とする。

田名部川計画高水流量 配分図 (単位  $\text{m}^3/\text{s}$ )



: 基準地点



(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次のとおりとする。

主要な地点における計画高水位、川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P. (m) 注)	川幅 (m)
田名部川	赤坂橋	河口から 4.0	+3.57	70
旧田名部川	下北橋	河口から 1.55	+0.70	86

注) T.P. : 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

田名部川は、沿川の農地約760haの農業用水としてかんがい利用されているとともに、動植物など豊かな自然環境を育む源となっている。

田名部川の流水の正常な機能を維持するために必要な流量については、今後、流況等の河川状況を把握するとともに、継続して水利用の実態及び動植物の生息・生育状況等について調査・検討のうえ設定するものとする。

(参考図)田名部川水系図

